

令和6年度 花・野菜技術センターで研究中の主な試験課題（資材、除草剤、殺菌殺虫剤の実用化試験は除く）

No.	課題名	担当G	研究期間	内容
1	北海道におけるアスパラガス枠板式高畝栽培システムの適性評価	花き野菜	R2～R6	北海道の環境で枠板式高畝栽培システムの利用を可能にするとともに、適品種を選定し、本システムの疫病に対する防除効果を評価する。
2	持続可能な施設園芸のための環境制御技術の高度化（カーネーション）	花き野菜	R4～R6	花きの加温作型において、環境制御によりエネルギー消費を削減させる技術を確認する。また、太陽光発電を用いて、自動換気、灌水などの環境制御を効果的かつ安定的に行うシステムを構築する。
3	いちごの輸出拡大を図るための大規模安定生産技術の開発	花き野菜	R4～R6	いちごの輸出拡大を図るため、大規模施設における栽培管理、生産時期の拡大、輸出に対応した生産技術体系を開発する。
4	道産かぼちゃ3トンどり省力栽培法と長期安定出荷技術の開発	花き野菜、生産技術	R4～R6	一斉収穫と長期貯蔵に適した多収品種を選定し、直播・密植・無整枝等によるかぼちゃの超多収省力栽培法を開発する。また、収穫後の調製・貯蔵法を改良し、長期安定出荷技術を開発する。
5	長期どり可能な春どりいちご系統の品種化	花き野菜、生産技術	R6～R8	収量および果実品質に優れた有望系統を選抜するとともに、有望系統の地域適応性を明らかにして、「ゆきうら」並の果実品質で多収な品種を開発する。
6	低コストかつ効率的な土壌消毒を前提とした施設トマト栽培技術の開発	花き野菜、生産技術	R6～R8	高い土壌消毒効果を発揮する側面根域制限栽培を開発し、その環境における栽培技術の検証する。
7	水稻複合経営におけるにんにく安定生産技術の確立	花き野菜、生産技術	R6～R8	水稻との複合経営において、安定的に球重60g以上のにんにくを生産する栽培法を確認するため、植え付け時期、種球サイズマルチ色を検討する。また、さび病の発生実態と防除対策を検討する。
8	農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立（キャベツ）	花き野菜、生産技術	R5～R9	未利用資源のみみ殻から製造するバイオ炭の土壌物理性改善効果や炭素貯留特性を明らかにし、キャベツ栽培において農研機構の開発する利用方法を実証する。
9	花ゆりの栄養障害簡易診断手法の開発	生産技術	R5～R7	花ゆりの栄養障害の簡易・迅速な診断および初動調査に資するため、要素欠乏、過剰症を整理するとともにAIによる栄養障害の画像分類手法を開発する。
10	アダプティブMAPシステムを用いたブロッコリーの新鮮度流通に関する研究	生産技術	R5～R7	青果物用鮮度保持技術「アダプティブMAPシステム」の鮮度保持効果、利用条件等について、ブロッコリー、アスパラ、スイートコーンで検討する。
11	北海道のにんじん栽培におけるプラスチックを用いない緩効性肥料の施用技術の実証	生産技術	R6～R7	にんじん栽培の効率化のために従来使用されていたプラスチック被覆を用いた緩効性肥料に代えて、プラスチックを用いない化学合成緩効性肥料への置き換え可能性を調査・実証する。
12	肥料価格高騰と養分収支を考慮した直播てんさいとたまねぎに対する適正施肥量の確立	生産技術	R6～R7	リン酸・カリの施肥量が比較的多いたまねぎを対象に、肥料価格高騰を考慮し、養分収支に見合ったリン酸・カリの適正施肥量を確立する。